

釜ヶ崎の結核問題

越冬から取り組みはじめる

日本における結核は一九七七年、ついに死亡順位第十位から姿を消し、第十一位になった。これは日本の疾病の歴史において、記念すべき出来事である。

明治後期に死亡統計がとられて以来、結核は常に高い死亡順位を示し、敗戦直後の一九五〇年までひたすら首位を独走してきた。従って、結核は国民的病気であり、その減少は国民的悲願でもあった。しかし、戦後の生活水準の向上、抗結核薬の開発などに伴い、戦後は次第に減少し続けてきた。そして、結核はもはや「過去の病気」とすら言われるようにまでなってきた。ところが実際は、以下に述べる

ように、結核は釜ヶ崎などの底辺社会に押し込められているのである。決して過去の病気などではない。

釜ヶ崎の全結核罹患率

結核予防法では、医師が結核と診断したとき、もよりの保健所に届けることになっている。届けを受けた保健所では、その人を結核患者として登録し、都道府県知事の責任で適切な措置を講じなければならぬ。ここでいう罹患率とは、その一年間に新たに登録された人口十万人に対する割合である。さて、大阪府の人口十万人当りの全結核罹患率は、一九七一年に

は二二六、六人で、全国第二位である。さらに全国都道府県指定都市を含めると、大阪市は三〇八、六人で、全国第一位である。そして釜ヶ崎のある西成区では七八〇、三人で、釜ヶ崎では実に一九〇〇人という高率を示している。

しかも、こと釜ヶ崎では、結核予防法のいう「医師の診断」が基準ではなく、大阪市立更生相談所の窓口が基準となっている。すなわち、どんなに医師が結核と診断しても、市更相が受け付けなければその人は結核とはならないのである。従って、この数字もかなり割り引きされているとみなければならぬ。いずれにせよ、大阪府が全国第二位、大阪府が全国第一位という原因は、釜ヶ崎が含まれているからであることには間違いない。

ところで、大阪府は一九七六年には、全国の罹患率ワースト第五位に後退している。大阪市も二二〇人と減少している。しかし、逆に西成区は八五八人と、むしろ増

加している。

第1表 1976年 罹患率

	患者数	罹患率
全 国	108,088	86,6
大阪市	6,120	220,0
西成区	1,454	858,0

このように釜ヶ崎では、結核の問題は、非常に大きな問題である。全国のレベルから見ると、釜ヶ崎はなんと一〇〇倍の高率を示している。この釜ヶ崎の実態は、絶対に放置しておくことの出来ない重大な問題を含んでいる。

釜ヶ崎の全結核有病率

罹患率は、毎年新しく発見された結核の割合であるが、それでは結核を有する人の、全体に対する有病率はどうかであろうか。

第2表 1976年 有病率

	患者数	有病率
全 国	394,093	348,5
大阪市	18,564	675,0
西成区	3,876	2,330,0

断された外来患者数三六二人中、「要入院」といわれた二〇〇人を対象とした調査結果である。この表からわかるように、働きざかりである三〇才から五〇才までの年齢層が七六、五を占めている。これは「厚生白書」にある「高年齢層に高い先進国型」にはほど遠い結果である。

第3表 年令別結核患者

年 令	実 数	%
19才以下	0	0
20~29	10	5,0
30~39	65	32,5
40~49	88	44,0
50~59	24	12,0
60以上	13	6,5
合 計	200	100,0

この二〇〇人の中で、この診断の結果初めて発見された者は五五人で、二八名である。残りの一四五人中通院治療歴のある者は一七

、五名だけで、他の多数は「治療が必要」とされながら、治療を受けなかった人々たちである。このことは、釜ヶ崎では生活の保障がない限り、継続通院が困難であることが物語っている。しかも、入院治療歴のない者は、一四五人中たった八人に過ぎない。従って、釜ヶ崎では、大多数の人が治療歴があるにもかかわらず、完全な治療を受けていないという実態を示している。

これらの大多数は、感染源となつて結核を伝染させていく原因ともなっている。このように、釜ヶ崎では結核患者が多く、しかも完治できず、ますます状況はひどくなつてゆくばかりである。

結びにかえて

全国的な減少にもかかわらず、釜ヶ崎では結核が減少するどころか、むしろ増加の一方をたどっていることをみてきた。今や結核は、国民的病気から社会的病気へ変つたといえる。釜ヶ崎では、全国的な減少にもかかわらず、結核が減少するどころか、むしろ増加の一方をたどっていることをみてきた。今や結核は、国民的病気から社会的病気へ変つたといえる。

年令別の結核患者

第三表は、大阪社会医療センターにおいて、一九七三年五月一日から八月十七日の間に肺結核と診

結核は社会的病気

全国的な減少にもかかわらず、釜ヶ崎では結核が減少するどころか、むしろ増加の一方をたどっていることをみてきた。今や結核は、国民的病気から社会的病気へ変つたといえる。

キリスト教釜ヶ崎越冬委員会では、今年の越冬活動は特に釜ヶ崎の結核問題に焦点を合わせ取り組みを開始する。みなさまのご協力を乞う次第である。



「マ」釜ヶ崎の病氣」などを決める。「喜望」発送。

▼9月29日 東南アジア六カ国から「カトリック正義と平和協議会」のメンバー十六人來訪。協友会と交流。スタッフフミティン。

▼9月30日(日) 日曜礼拝。KUIM東南アジア現場研修都市班のリーユニオン。これから毎月一回学習会を持つことになる。

▼10月1日 高井神学生宣教師修ミィティング 於大阪教会。

▼10月2日 喜望の家バザー。京都教会、天王寺教会奉仕。

▼10月3日 本棚三本入る。これで娯楽室の図書の外、病院訪問用図書千冊が整う。新潮社、中央出版社などから定期的に新本が寄贈され、感謝。

▼10月5日 むすび会例会(毛野典昭さん送別会と歌う会)。

▼10月6日 スタッフフミィティング。慶応大学医学部教授來訪。キリスト教釜ヶ崎越冬委員会。テ

▼10月7日(日) CS、日曜礼拝(愛餐会)。タイのチェンマイからニッポ神父來訪。協友会例

▼10月8日 住之江ボランティア協会奉仕。

▼10月8~9日 広島岡島さん宅で西教区社会厚生部会。

▼10月11日 聖書と心理。大阪府精神衛生中央研究所訪問。

▼10月12日 KUIM例会 於京都西陣市民センター。むすび会例会(談笑会)。

▼10月13日 西成ベビーセンター奈良公園へピクニック。岸井先生、村上さんを迎えてスタッフフミィティング。

▼10月15日 ろうてるホーム訪問。

▼10月16日 浜寺教会、石津教会、堺教会奉仕。

▼10月17日 社会医学研究会於医療センター。原田孝治さん召

天。臨終の祈り。

▼10月18日 聖書と心理。比良病院で原田孝治さんの家族と共にお別れの祈り。

▼10月19日 南YMCAから川村、西山主専來訪。むすび会例会(体験発表)。

▼10月21日(日) CS、日曜礼拝(原田孝治さん追悼礼拝)。千北病院訪問。

▼10月22日 喜望の家世話人会。都市文化センターに大蔵教授訪問。

▼10月23日 パレスチナの戦傷児の医療を推進する会 於医療セ

ンター。関西ルター研究会 於大阪教会。

▼10月24日 越冬委員会。

▼10月25日 聖書と心理。スタッフフミィティング。山王子ども会運動会打合わせ会。

▼10月26日 タイのパンコックからプラティープさん來訪。むすび会(誕生会)。泉州病院から平野先生、北海道小樽から小林先生來訪。

▼10月27日 山王子ども会運動会 於金塚小学校校庭。こども百七〇人、リーダー二十人参加。

越冬活動にご協力を

今年も協友会とKUIMが協力して「キリスト教釜ヶ崎越冬委員会」を組織し、12月24日から3月31日まで越冬活動を行います。今年テーマを「釜ヶ崎の病氣」とし、特に結核問題と集中的に取り組みます。そのために専従者とケースワーカー(看護婦)をおき、昼間の活動を展開します。昼間の活動(病院訪問など)には婦人の方も参加しやすいかと思ひます。婦人会単位などで、今からご計画に入れてくだされば幸いです。

なお、従来の活動は今まで通りの予定です。詳しくは喜望の家まで。